

看 護 学 専 攻
(博士後期課程)

杏林大学 大学院 保健学研究科 (博士後期課程) 看護学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
<p>保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、高い専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。</p>	<p>保健、医療、看護、福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究、教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の語彙に対応できる広い視野を培うこと、さらには、それらの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。</p>	<p>保健学研究科看護学専攻博士後期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに修得すべき能力を以下のように定める。修了の要件を満たし、これら能力をすべて修得したと認められた学生に、博士(看護学)を授与する。</p> <p>(1) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指す視座を基に、専門分野における最新知識を開発できる。</p> <p>(2) 優れたマナジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的、管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマナジメントができる。</p> <p>(3) 高い倫理観と研究遂行能力 高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化し、自ら発見し、看護学を体系化し、自ら発見し、看護学を推進できる。</p>	<p>保健学研究科看護学専攻博士後期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、保健、医療、福祉領域の専門分野を、「基礎看護科学」「実践看護科学」「ジェネラル」「特別研究」の4分野に分けて、以下に示した方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習などを適切に組み合わせ合わせた授業を行う。これらの科目は体系的に理解できるよう、カリキュラムマップにより可視化する。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。</p> <p>(1) 専門領域 <ul style="list-style-type: none"> (1-1) 専門領域における最新知識を基に看護ケアの開発や看護実践領域の基礎看護科学分野の科目を配置する。 (1-2) 専門領域における国際的な研究動向や知識を修得するために <ul style="list-style-type: none"> ・主科目に各専門領域の講義科目、専門領域の国内外の語理論、研究方法論を修める科目を、副科目に関連する他領域の科目、英語講義科目を配置する。 ・国際的な研究動向や知識を修得するために「ジャーナルⅠ」「ジャーナルⅡ」を、英語での論文作成能力を修得するために「英語論文作成法」を配置する。 (1-3) 高い倫理観と研究遂行能力を修得するために「特別研究ⅠⅡⅢ」を配置する。 </p> <p>(2) 教育方法 <ul style="list-style-type: none"> (2-1) 専門領域における最新知識を基に看護ケアの開発や看護実践を組織的にマナジメントできる能力を修得するために <ul style="list-style-type: none"> ・学生の実務経験、研究経験に応じて、看護学の諸問題を解決するための知識の幅が広がることを期待される科目、博士論文の作成に重要な科目、基礎的な素養の涵養に役立つ科目について分野を超えて自由に選択できるように設定し、きめ細かに指導する。 (2-2) 研究遂行能力を修得するために <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員が研究指導計画及び学生の作成する履修計画に基づき、きめ細やかに論文執筆や論文発表の指導を行う。また、論文発表に必要な能力を修得するために研究報告会を実施する。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 </p> <p>(3) 教育成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上まっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価であるGPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を評価するため、集団討論、口頭試問への回答、筆記試験、レポートなど複数の方法で、課題発見能力の測定を行う。 (3-3) 博士論文発表会および博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付いているかを測定する。</p>	<p>保健学研究科看護学専攻博士後期課程は、本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。</p> <p>(3-1) 一般選抜 ・英語問題、専門科目および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画として適切であるかを総合的に評価する。</p> <p>(3-2) 社会人特別選抜 ・英語および一般選抜の専門問題に当たる小論文および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画として適切であるかを総合的に評価する。</p> <p>(2) 求める学習成果 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 研究者としての倫理観、看護学の研究課題を探究する明確な目的意識を持つ人 (1-2) 看護学における研究を推進する基礎的な研究能力と高度な実践能力を持つ人 (1-3) 看護実践の質の向上と看護学の体系化に貢献する意志と熱意を持つ人 (1-4) 問題解決に向け、高い倫理観を持って自立的に研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる人</p> <p>(2) 求める学習成果 (1) 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 看護学専攻博士後期課程の教育を受けるための基礎的学力を持っている。(専門的知識・専門的技能) (2-2) 看護学における課題への研究的関心事象について科学的思考を持つことと、論理的に表現できる能力を有している。(問題解決能力) (2-3) 幅広い学際的視点を修得するために他分野の領域の学生とも積極的にディスカッションし、相互理解を深めながら学ぶ能力を有する人。(コミュニケーション能力) (2-4) 研究計画を立案・遂行し、論文を作成する基礎的能力を養うことができる。(研究遂行能力)</p> <p>(3) 入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 ・英語問題、専門科目および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画として適切であるかを総合的に評価する。</p>

看護学専攻 博士後期課程

基礎看護科学分野

看護学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【基礎看護科学分野】

◆看護学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専門領域における最新知識
・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
- (2) 優れたマネジメント能力
・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。
- (3) 高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	ページ
				春	秋	夜間	土曜				
基礎看護科学	生活機能看護学A	金子 多喜子	4	○	○	○	×	★	★		303
	生活機能看護学B	金子 多喜子	2		○	○	×	★			303
	医療安全管理学A	荒添 美紀	4	○		○	×	★	★		303
	医療安全管理学B	荒添 美紀	2		○	○	×	★			304
	統計学Ⅰ	照屋 浩司	2	○		○	×	★	★	★	304
	統計学Ⅱ	照屋 浩司	2		○	○	×	★	★	★	304
	小児保健看護学A	藤田 千春	2	○		○	○	★	★		305
	小児保健看護学B	藤田 千春	2		○	○	○	★	★		305

【看護学専攻 実践看護科学分野 博士後期課程 履修モデル】

★成人看護の教育・研究者を目指す大学院生の履修例

- ・主科目として、成人看護学（慢性期）A、B、ジャーナルクラブ I、II、特別研究 I、II、III、の計18単位を履修する。
- ・副科目として、基礎看護科学に配置されている統計学 I、II を計4単位を履修する。
- ・上記のうち、統計学 II と成人看護学（慢性期）B を除いて必修科目である。

修了要件（20単位以上）								
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主 科 目	専門分野講義科目	成人看護学（慢性期）A 2 （通年）	成人看護学（慢性期）A 2 （通年）		成人看護学（慢性期）B 2			18
	ジャーナルクラブ			ジャーナルクラブ I 2		ジャーナルクラブ II 2		
	特別研究	特別研究 I 2 （通年）	特別研究 I 2 （通年）		特別研究 II 2		特別研究 III 2	
	小計	4	4	2	4	2	2	
副 科 目	他分野科目	統計学 I 2	統計学 II 2					4
	小計	2	2	0	0	0	0	
合計		6	6	2	4	2	2	22

【科目名】生活機能看護学A
【授業コード】22N20011 22N20012
【代表教員】金子 多喜子
【授業概要】

各国の看護教育の歴史の変遷と制度についてレビューするとともに、わが国の教育制度を踏まえて、看護教育のあり方を検討する。また、看護学教育における国内外の課題について分析し、研究の動向と課題を探求する。さらに、保健師助産師看護師法などの改正に注目し、看護専門職の資質能力の一層の向上を図るための「看護学基礎カリキュラム」の構築を試みる。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

国内外の看護教育における課題について分析し、看護専門職の資質の向上を図るための看護学基礎カリキュラムの構築を試みる。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①看護専門職者を育成するための看護学教育の方法を論述する。(知識)

②看護教育学の動向および課題を熟知する。(知識)

③「看護学基礎カリキュラム」の素案を作成する。(態度・習慣)(知識)(技能)

【授業計画】

1. 学習計画の立案 [講義・質疑応答]

2-5. 各国の看護教育の歴史の変遷と制度に関連する文献検討 [講義・質疑応答]

6-9. わが国の教育制度に関連する文献検討 [講義・質疑応答]

10-11. 看護専門職者を育成するための看護学教育の方法

[プレゼンテーション・講義・質疑応答]

12-15. 看護学教育における課題に関連する文献検討 [講義・質疑応答]

16-18. 看護学教育における今日的課題 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

19-22. 大学における看護学基礎カリキュラムに関連する文献検討 [講義・質疑応答]

23-24. 今後の大学における看護系人材のあり方 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

25-30. 「看護学基礎カリキュラム」の素案作成 [講義・質疑応答]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

また、国内外の看護学教育に関連する文献検索し、精選した文献の内容についてまとめておく。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】生活機能看護学B

【授業コード】22N20022

【代表教員】金子 多喜子

【授業概要】

看護ケアの確立における今日的課題を看護学教育の観点から分析し、教育方法論を検討する。また、教育者、学習者、教育方法、教育プログラム、教育評価に関する研究論文を通して、研究者や専門職者との交流に基づく看護教育における動向と課題を探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

〈一般目標 (GIO) 〉

教育方法論を検討し、研究者や専門職者との交流による実践に基づいた看護教育の編成による質の高い看護ケアの確立方法を考察する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①質の高い看護ケアの確立を目指すための看護学教育の考え方と方法を論述する。(知識)

②看護の教育的な機能、効果的な教育方法、教育者の質向上などに関する概念を説明する。(知識)

③看護教育方法論の研究の動向と課題を明確化する。(知識)

【授業計画】

1. 学習計画の立案 [講義・質疑応答]

2. 看護教育学の目的と本質 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

3-4. 看護教育カリキュラムの概念(2回) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

5. 看護教育カリキュラムの動向と課題 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

6. 教育学習理論 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

7. 学習と教授の概念 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

8. 学習プログラムと評価の概念 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

9. 教育理論 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

10. アンドラゴジの考え方と必要性 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]

11. 看護基礎教育と継続教育に関する文献検討 [講義・質疑応答]

12-14. 看護専門職者とキャリア教育・開発のための方法(3回)

[プレゼンテーション・講義・質疑応答]

15. まとめ [講義・質疑応答]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回のテーマに即した発表について、授業前日までにレジメと主な参考文献をコピーし、参加者全員に配布する。参加者は、配付資料および文献を熟読して出席する。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】医療安全管理学A

【授業コード】22N20031

【代表教員】荒添 美紀

【授業概要】

医療安全管理のための指針や組織の構築、安全管理者の役割と権限、リスク情報の収集・分析・対策・評価の手法、組織内人的資源の院内教育への活用を教授する。また、医療事故発生時の対応、紛争の背景要因や医療訴訟に関する法的知識を修得させ、医療職として、組織における医療安全への取り組みに積極的に参加できるための素養を培う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

医療安全管理の潮流、医療安全管理の実際、看護事故防止の実際、医療過誤の法的責任に関する知識を修得する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①医療安全管理の考え方を説明できる。(知識)

②医療事故やインシデント発生メカニズムが分析できる。(知識)

③医療安全推進のための取り組みが説明できる。(知識)

④医療事故発生時の対応を説明できる。(知識)

⑤医事紛争の背景要因を説明できる。(知識)

⑥医療過誤の法的責任を説明できる。(知識)

⑦医療安全教育について説明できる。(知識)

【授業計画】

1. ガイダンス、学習計画の立案 [講義・質疑応答・ディスカッション]

授業の目的、内容、方法、スケジュールの確認及び学習計画を作成する。

2-4. 医療安全問題の歴史と潮流 [講義・質疑応答・ディスカッション]

医療事故社会問題化の契機となった事故事例を分析したうえで、我が国の医療安全対策の潮流について学ぶ。

5-6. 医療安全推進のための基本的な考え方 [講義・質疑応答・ディスカッション]

看護業務の特性をふまえた看護管理の実践や組織横断的で全員参加の医療安全管理活動、ノンテクニカルスキルなどを活用したチームでの医療安全管理活動などについて学ぶ。

7-12. 医療事故発生時のメカニズムとその対策 [講義・質疑応答・ディスカッション]

医療事故発生時のメカニズムをヒューマンエラー、環境、組織、専門性の違いによるエラーなど、多方面から考え、その対策について学ぶ。

13-15. 医療安全における倫理と責務 [講義・質疑応答・ディスカッション]

看護職の役割や責任を業務範囲や倫理をふまえて医療安全を学ぶ。

16-19. 国内外の医療安全推進のための取り組み [講義・質疑応答・ディスカッション]

我が国の先進的病院、および国際的な医療安全の取組について学ぶ。

20-23. 医療事故発生時の対応 [講義・質疑応答・ディスカッション]

医療事故発生時の初期対応、中長期的対応について学ぶ。

24-25. 医療事故における法的責任 [講義・質疑応答・ディスカッション]

看護師が当事者あるいは重要な関係者になった医療訴訟事例を、法的論点をもとにした法的責任を学ぶ。

26-29. 医療安全教育のあり方 [講義・質疑応答・ディスカッション]

基礎教育や継続教育としての医療安全教育を学ぶ。

30. まとめ [質疑応答・ディスカッション]

医療職としての医療安全に取り組み心構えと対応について考察する。

(フィードバック方法) 各回の授業初めに前回の授業に関して質疑応答し、不適切な理解を修正する。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は、120時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】医療安全管理学B

【授業コード】22N20042

【代表教員】荒添 美紀

【授業概要】

医療安全管理のための基本的な考え方や、安全管理者の役割と権限、リスク情報の収集・分析・対策・評価の手法、組織内人的資源の院内教育への活用を教授する。また、医療事故の事例とその原因を分析し、医療職として医療事故予防対策の具体的方法や安全管理のあり方について考える。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

《一般目標 (GIO) 》

医療安全管理の潮流、医療安全管理の実際、看護事故防止の実際、医療過誤の法的責任に関する知識を修得する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①医療安全管理の考え方を説明できる。(知識)
- ②国内外の医療安全の取り組みを説明できる。(知識)
- ③病院における医療安全管理体制を説明できる。(知識)
- ④診療の補助業務の危険要因を業務プロセスに沿って説明できる。(知識)
- ⑤療養上の世話の患者と状況における危険要因を説明できる。(知識)
- ⑥医事紛争の背景要因を説明できる。(知識)
- ⑦医療過誤の法的論点から説明できる。(知識)

【授業計画】

1. 医療を取りまく社会の状況 [講義・質疑応答・ディスカッション]
近年の社会の変化と医療の状況から、医療安全の基礎について学ぶ。
2. 国内外の医療安全の取り組み [講義・質疑応答・ディスカッション]
我が国の先進的病院および国際的な医療安全の取組について学ぶ。
- 3-4. 病院における医療安全管理体制 [講義・質疑応答・ディスカッション]
病院における医療安全管理体制と安全文化について学ぶ。
- 5-7. 看護事故防止教育のあり方 [講義・質疑応答・ディスカッション]
診療の補助、療養上の世話の多様な看護業務を構造化し、看護事故防止の考え方(総論)と主要な看護業務の事故防止(各論)について学ぶ。
- 8-10. 診療の補助業務の事故防止の考え方 [講義・質疑応答・ディスカッション]
注射事故、内服と薬、経管栄養、輸血、ポンプ、チューブ管理の事故防止について学ぶ。
- 11-13. 日常生活援助の事故防止の考え方 [講義・質疑応答・ディスカッション]
転倒転落、誤嚥・窒息、入浴中の事故、熱傷事故防止について学ぶ。
14. 医療訴訟の法的論点 [講義・質疑応答・ディスカッション]
看護師が当事者あるいは重要な関係者になった医療訴訟事例から法的な論点および看護師の観察と記録の在り方について学ぶ。
15. まとめ [質疑応答・ディスカッション]
医療職としての安全管理への心構えと対応について考察する。
(フィードバック方法) 各回の授業初めに前回の授業に関して質疑応答し、不適切な理解を修正する。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は、60時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】統計学I

【授業コード】22N20051

【代表教員】照屋 浩司

【授業概要】

自然科学分野の研究において、研究方法・調査方法の決定や得られたデータを客観的に評価するためには、統計学的手法を適切に利用することが重要である。本講では、数式などではできないだけ用いず、集団のデータの基本的な取り扱いの考え方や手法について、自身の研究や文献の抄録に役立てるための基本事項の解説と模擬データを用いた演習を実施する。統計解析用アプリケーションとしては主にSPSSの使用を予定している。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

自身の研究や文献の抄録に役立てるために、生物統計学の基本的な考え方や手法を理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①基礎的な統計学的解析について修得する。
- ②模擬データおよび実際のデータについて、必要な解析方法を選択、実施し、その解釈まで行うことができる。

【授業計画】

1. 調査技法 [講義・演習・質疑応答]
標本調査についての基礎的な理解と、質問紙調査の概要について学ぶ。
- 2-3. 統計学的解析の基礎(2回) [講義・演習・質疑応答]
変数の尺度、質的・量的データの要約方法、二変数間の関連について検討するための統計解析手法について理解する。
4. クロス表分析 [講義・演習・質疑応答]
質的データと質的データの関連について検討するクロス表分析のやや高度な手法について理解する。
- 5-6. 平均値の差の検定と分散分析(2回) [講義・演習・質疑応答]
量的データの群間比較を行う平均値の差の検定と分散分析のやや高度な手法について理解する。
7. 相関と回帰 [講義・演習・質疑応答]
量的データと量的データの関連について検討する相関分析、回帰分析のやや高度な手法について理解する。
- 8-9. 多変量解析(2回) [講義・演習・質疑応答]
多変量の関わる解析手法についてやや高度な手法について理解する。
- 10-11. エクセルを用いた統計処理(2回) [講義・演習・質疑応答]
模擬データを用い、エクセルを活用して統計解析を行う。
- 12-14. SPSSないしEZRを用いた統計処理(3回) [講義・演習・質疑応答]
模擬データを用い、SPSS・EZRを中心とした統計解析ソフトを用いた解析を行う。
15. まとめ [講義・演習・質疑応答]
本講の全体について、総括する。
(フィードバック方法) 課題などのフィードバックは講義時間内に行うとともに、添削後返却する。

【準備学習】

疫学や保健統計の学習は難解であり、親しみにくい領域であると思われる。分かりやすい解説とするので、復習に重点をおいた学習を心がけること。パソコンの基本的な操作、およびマイクロソフト社のワード、エクセル、パワーポイントの各アプリケーションの基本的な操作が可能であることが望ましい。

(予習)

- 1-15. 配布資料を参考に、当日予定の項目について事前に予備的な知識を得て、それぞれの日ごとに、十分に予習を行うこと(各日30分)。

(復習)

- 1-15. 配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること(各日60分)。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(70%)、口頭試問(30%)

【備考】

【科目名】統計学II

【授業コード】22N20062

【代表教員】照屋 浩司

【授業概要】

自然科学分野の研究において、研究方法・調査方法の決定や得られたデータを客観的に評価するためには、統計学的手法を適切に利用することが重要である。本講では、集団のデータの取り扱いの基本的な考え方や手法について、リスク解析や多群の比較といったやや応用的な内容にまで踏み込んで解説と演習を行う。演習で用いる統計解析用アプリケーションとしては主としてSPSSの使用を予定している。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

自身の研究や文献の抄録に役立てる為に生物統計学のやや応用的な考え方や手法を理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①応用的な統計学的解析について修得する。
- ②模擬データおよび実際のデータについて、必要な解析方法を選択、実施し、その解釈まで行うことができる。

【授業計画】

- 1-2. 統計学的解析の基礎(2回) [講義・演習・質疑応答]
変数の尺度、質的・量的データの要約方法、二変数間の関連について検討するための統計解析手法について理解する。
- 3-5. 多元配置分散分析と共分散分析(3回) [講義・演習・質疑応答]
分散共分散分析の基礎とやや高度な手法について理解する。
- 6-8. 重回帰分析(3回) [講義・演習・質疑応答]
重回帰分析の基礎とやや高度な手法について理解する。
- 9-11. 多重ロジスティック重回帰分析(3回) [講義・演習・質疑応答]
多重ロジスティック重回帰分析の基礎とやや高度な手法について理解する。
- 12-14. カテゴリカルデータの分析(3回) [講義・演習・質疑応答]
ノンパラメトリックな検定の基礎とやや高度な手法について理解する。
15. まとめ [講義・演習・質疑応答]
本講の全体について、総括する。
(フィードバック方法) 課題などのフィードバックは講義時間内に行うとともに、添削後返却する。

【準備学習】

疫学や保健統計の学習は難解であり、親しみにくい領域であると思われる。分かりやすい解説とするので、復習に重点をおいた学習を心がけること。パソコンの基本的な操作、およびマイ

クロソフト社のワード、エクセル、パワーポイントの各アプリケーションの基本的な操作が可能であることが望ましい。

(予習)

1-15. 配布資料を参考に、当日予定の項目について事前に予備的な知識を得て、それぞれの日に、十分に予習を行うこと。(各日 30分)

(復習)

1-15. 配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること。(各日 60分)

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆授業外学習時間(予習・復習など)は 60 時間必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習すること。

【評価方法】

レポート(70%)、口頭試問(30%)

【備考】

【科目名】小児保健看護学A

【授業コード】22N20071

【代表教員】藤田 千春

【授業概要】

小児保健、家族支援、小児看護に関わる人々への研究に必要な理論や概念、研究デザインを概観し、研究課題を抽出する能力を育成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

《一般目標 (GIO)》

①子どもとその家族の健康支援、小児看護に関連する研究の最新の知見を探求できる。

②関心領域の文献検討や用いられている理論、概念枠組みの分析から研究課題を抽出する能力を養う。

《個別目標 (SBOs)》

①子どもの権利擁護及び、子どもと家族に対する保健、福祉政策について説明できる。

②子どもと子どもに関係する人々の研究動向について説明できる。

③子どもと家族等の理論の理解により、研究課題の概念枠組みの検討に活用できる。

【授業計画】

1-2. オリエンテーション、子どもの権利擁護に関する歴史の変遷と現状、研究への活用(倫理的配慮) [プレゼンテーション・ディスカッション]

3-5. 日本及び諸外国における保健・福祉政策の概観

[プレゼンテーション・ディスカッション]

6-7. 子育てに支援が必要な状況の家族支援(虐待、多胎児育児、重症児の養育)

[プレゼンテーション・ディスカッション]

8-13. 子どもや家族の反応を理解するための諸理論の理解

[プレゼンテーション・ディスカッション]

14-24. 研究手法の理解、概念分析、質的研究、量的研究、統計ソフト操作

[プレゼンテーション・ディスカッション]

25-28. 小児看護、小児保健の研究の動向

それぞれの関心領域より文献レビュー [プレゼンテーション・ディスカッション]

29-30. 関心領域の研究疑問を明らかにする方策や概念枠組みの検討

[プレゼンテーション・ディスカッション]

2回目以降、各項目に関連した興味・関心の高い内容についてパワーポイントや書面を用いてプレゼンする。

(フィードバック方法) 各回の内容のフィードバック講義中または次回の講義の最初に行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(80%)、口頭試問(20%)

【備考】

【科目名】小児保健看護学B

【授業コード】22N20082

【代表教員】藤田 千春

【授業概要】

小児保健及び小児看護における意義高い研究課題について、文献検討やディスカッションを通して明確にし、研究実施に必要な手順を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

《一般目標 (GIO)》

子どもと家族の健康増進及び疾病管理に関する看護課題が検討でき、支援策の検討や支援につながる研究スキルを養う。

《個別目標 (SBOs)》

①子どもや家族及びそれらを取りまく環境における看護上の課題を明らかにできる。

②慢性疾患・移行期医療患者が抱える身体的課題、発達段階別の心理社会的問題について説明できる。

③慢性疾患・移行期医療患者の家族がどのような問題を有しているか、説明できる。

④①～③を通して、自らの研究課題を見出し、研究計画書作成ができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション、これまで実施してきた研究の発表

[講義・プレゼンテーション・ディスカッション]

2. 英文献クリティーク(それぞれの関心領域の先行文献より)

[講義・プレゼンテーション・ディスカッション]

3-7. 慢性疾患患者と家族に対する支援の現状と今後の移行支援について

(文献レビュー:1型糖尿病、先天性心疾患、低出生体重児、重症心身障害児等)

[講義・プレゼンテーション・ディスカッション]

8. 小児がん経験者の学童期における治療終了後の QOL とヘルスニーズ

[プレゼンテーション・ディスカッション]

病名告知の課題、学校生活を送るうえでの問題と友人関係、学校と医療の連携について理解する。

9. 小児がん経験者の思春期における治療終了後の QOL とヘルスニーズ 続

[プレゼンテーション・ディスカッション]

思春期の小児がん経験者の対人関係の課題と生活習慣や疾患の自己管理の課題、進路決定上の悩みについて理解する。

10. 小児がん経験者の家族 [プレゼンテーション・ディスカッション]

移行期医療を受ける患者の家族が抱える不安と支援ニーズ、支援体制の課題について理解する。患者をサポートする支援体制

11. 発達障害児とその家族への支援: 発達障害児の統計的な推移支援の現状と課題

[プレゼンテーション・ディスカッション]

12. 子育て支援の現状と課題 [演習・ディスカッション]

我が国における子育ての政策と現状を把握し、課題と支援の方策についてプレゼンする。

13-15. 研究テーマの選定と研究計画書作成 [プレゼン・ディスカッション]

2～15 までプレゼンし、ディスカッションする。

(フィードバック方法) 各回の内容のフィードバックは次回の講義の最初に行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(30%)、プレゼンテーション(70%)

【備考】

看護学専攻 博士後期課程

実践看護科学分野

看護学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【実践看護科学分野】

◆看護学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

(1) 専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

(2) 優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

(3) 高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	ページ
				春	秋	夜間	土曜				
実践看護科学	成人看護学（急性期）A	加賀谷 聡子	4	○	○	○	○	★	★		309
	成人看護学（急性期）B	加賀谷 聡子	2		○	○	○	★			309
	成人看護学（慢性期）A	中島 恵美子	4	○	○	○	○	★	★		309
	成人看護学（慢性期）B	中島 恵美子	2		○	○	○	★			309
	小児看護学A	伊藤 久美	4	○	○	○	○	★	★		310
	小児看護学B	伊藤 久美	2	○		○	○	★		★	310
	精神看護学A	浅沼 奈美	4	○	○	○	×	★	★		310
	精神看護学B	浅沼 奈美	2	○		○	×	★			311
	ウィメンズヘルス看護学A	松岡 恵	4	○	○	○	×	★	★		311
	ウィメンズヘルス看護学B	松岡 恵	2	○		○	×	★			311
	地域看護学A	大木 幸子	4	○	○	○	×	★	★		311
	地域看護学B	大木 幸子	2	○		○	×	★			312

【看護学専攻 実践看護科学分野 博士後期課程 履修モデル】

★成人看護の教育・研究者を目指す大学院生の履修例

- ・主科目として、成人看護学（慢性期）A、B、ジャーナルクラブ I、II、特別研究 I、II、III、の計18単位を履修する。
- ・副科目として、基礎看護科学に配置されている統計学 I、II を計4単位を履修する。
- ・上記のうち、統計学 II と成人看護学（慢性期）B を除いて必修科目である。

修了要件（20単位以上）								
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主科目	専門分野講義科目	成人看護学（慢性期）A 2	成人看護学（慢性期）A 2		成人看護学（慢性期）B 2			18
	ジャーナルクラブ			ジャーナルクラブ I 2		ジャーナルクラブ II 2		
	特別研究	特別研究 I（通年） 2	特別研究 I（通年） 2		特別研究 II 2		特別研究 III 2	
	小計	4	4	2	4	2	2	
副科目	他分野科目	統計学 I 2	統計学 II 2					4
	小計	2	2	0	0	0	0	
合計		6	6	2	4	2	2	22

【科目名】成人看護学（急性期）A
【授業コード】22N30011 22N30012
【代表教員】加賀谷 聡子
【授業概要】
 急性期にある患者と家族に生じている現象を多面的に探究し、関連する理論や概念を分析し、看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 専門領域における最新知識
 ・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
 ・優れたマネジメント能力
 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

<一般目標（GIO）>
 ①関心領域に関連した理論や概念を分析する。更にケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。
 ②急性期看護に関する研究プロジェクトに参加し、その準備と研究過程を学ぶ。
 ③国内外の学会および学術誌に発表し、研究者としての資質を養う。

【授業計画】
 1-10. 治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特徴と課題の明確化 [演習]
 先行研究をクリティクし、国際的動向も踏まえてわが国の特徴と課題を明確化する。
 11-15. 関心領域に関連した理論や概念の分析 [演習]
 関心領域に関連した理論や概念分析について学ぶ。
 16-20. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討と課題の明確化 [演習]
 関心領域の看護支援方法の開発に向けて検討を行い、課題を明確にする。
 21-24. 急性期看護に関する研究プロジェクトの準備と研究過程 [演習]
 研究プロジェクトの準備とその研究過程から学ぶ。
 25-30. 国内外の学会および学術誌への論文投稿の進め方 [演習]
 国内外の学会発表および学術誌への論文投稿の進め方について学ぶ。
 （フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。
 (復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間（予習復習など）は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問（50%）、プレゼンテーション（50%）

【備考】

【科目名】成人看護学（急性期）B
【授業コード】22N30022
【代表教員】加賀谷 聡子
【授業概要】
 急性期にある患者および家族の体験を明らかにし、関連する理論や概念および看護支援技術の開発と体系化について、国内外の研究から学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 専門領域における最新知識
 ・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
 <一般目標（GIO）>
 関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。

【授業計画】
 1-5. 治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特徴と課題の明確化 [演習]
 関心領域の先行研究を検討し、国際的動向を踏まえてわが国の特徴や課題を明確化する。
 6-10. 各自の関心領域に関連した理論や概念、ケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 [演習]
 関心領域に関連した理論や概念を学び、看護支援方法開発に向けた研究例などを検討する。
 11-15. 研究課題の明確化 [演習]
 1-10回までの検討結果をもとに、研究課題を明確化していく。
 （フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間（予習復習など）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問（50%）、プレゼンテーション（50%）

【備考】

【科目名】成人看護学（慢性期）A
【授業コード】22N30031 22N30032
【代表教員】中島 恵美子
【授業概要】
 成人期の疾病治療を経験した患者を対象に、急性期から慢性期における、その個人や家族の体験を明らかにし、セルフマネジメントや緩和ケアなどの看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 専門領域における最新知識
 ・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
 優れたマネジメント能力
 ・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

<一般目標（GIO）>
 ①関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。
 ②がん看護およびクリティカルケア看護に関する研究プロジェクトに参加し、その準備と研究過程を学ぶ。
 ③国内外の学会および学術誌に発表し研究者としての資質を養う。

【授業計画】
 1-10. がん治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特長と課題の明確化を行う。[演習]
 11-15. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討を行う。[演習]
 16-20. 2の検討結果より研究課題の明確化を行う。[演習]
 21-24. がん看護に関する研究プロジェクトの準備とその研究過程から学ぶ。[演習]
 25-30. 国内外の学会および学術誌への論文などの作成・発表の進め方について学ぶ [演習]
 以上の内容を30回で実施する。
 （フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-30. 講義終了後は内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間（予習復習など）は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問（50%）、プレゼンテーション（50%）

【備考】

【科目名】成人看護学（慢性期）B
【授業コード】22N30042
【代表教員】中島 恵美子
【授業概要】
 成人期の看護の対象者および家族の体験を明らかにし、主としてセルフケアマネジメントや緩和ケアに関する看護支援技術の開発と体系化について、国内外の研究から学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 専門領域における最新知識
 ・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
 <一般目標（GIO）>
 慢性期看護を中心に、関心分野に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における緩急課題を明らかにする。

【授業計画】
 1-5. 治療を受ける患者および家族ケアに関する研究の国際的動向から我が国の特徴と課題の明確化 [演習]
 6-10. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 [演習]
 11-15. 1-10回までの検討結果より研究課題の明確化 [演習]
 （フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を再学習しておくこと。
 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い、プレゼン資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義後は学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間（予習復習など）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問（50%）、プレゼンテーション（50%）

【備考】

【科目名】小児看護学A
【授業コード】22N30051 22N30052
【代表教員】伊藤 久美
【授業概要】

小児看護学領域で重要と考えられる諸理論、概念を概観し分析する。関連領域の研究のクリティックを行い、小児看護学における研究の動向と課題を探索する。子どもと家族の健康にかかわる諸現象をとらえ明らかにするための研究方法を探索する。理論や概念の分析、クリティックを通して、自らの研究課題を明確にし探求していく能力を養う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

《一般目標 (GIO)》

研究方法、小児看護学領域に関連する諸理論や概念について理解するとともに、関心ある現象に関する研究の動向や課題を探索する。

《個別目標 (SBOs)》

①研究プロセスを概観し、さまざまな研究方法の特徴とクリティックのガイドラインについて述べるができる。

②関心領域の研究についてクリティックすることができる。

③小児看護学関連の諸理論、概念について理解し、分析することができる。

【授業計画】

1-4. 研究プロセスの概観：質的研究 [プレゼンテーション・ディスカッション]
質的研究の特徴とクリティックのガイドラインについて学ぶ。

5-9. 研究プロセスの概観：量的研究 [プレゼンテーション・ディスカッション]
量的研究の特徴とクリティックのガイドラインについて学ぶ。

10-13. 概念分析とサブストラクチャー [プレゼンテーション・ディスカッション]
概念分析、およびサブストラクチャーについて学ぶ。

14-17. 看護の知識構築に関連するサイエンスの歴史と哲学 [プレゼンテーション・ディスカッション]
サイエンスの歴史と哲学を学ぶ意義、哲学の流れを概観する。

18-21. 看護の歴史と看護理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]
理論について学習し、関心ある理論の分析を行う。

22-25. 小児看護学領域の研究の動向と課題の探求 [プレゼンテーション・ディスカッション]
関心のある現象に関する量的および質的研究を熟読し、クリティックする。

26-30. 概念や理論の探求 [プレゼンテーション・ディスカッション]
小児看護学に関連する諸理論の中から興味のあるものを選択し、探求する。関心のある現象に関する概念や理論について分析する。

(フィードバック方法) 課題、プレゼンテーションに対するフィードバックは講義内に行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習すること。

【評価方法】

プレゼンテーション・口頭試問(50%)、レポート(50%)

【備考】

【科目名】小児看護学B

【授業コード】22N30061

【代表教員】伊藤 久美

【授業概要】

小児看護学における研究課題について、文献レビュー、課題の明確化、研究方法に関する演習を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO)》

子どもと家族の健康をめぐる課題をとらえ、支援する実践能力と研究を遂行する能力を高める。

《個別目標 (SBOs)》

①小児看護学における課題を文献レビューやフィールドワークを通して明らかにすることができる。

②研究を遂行する際の具体的な研究手法としてのデータ収集、分析方法について理解し、実践することができる。

【授業計画】

1-4. 子どもと家族に関連する健康課題、研究の国内外の動向と課題 [プレゼンテーション・ディスカッション]

5-7. 自らの関心領域における研究課題の検討 [プレゼンテーション・ディスカッション]

文献レビューを行い、周辺領域を含めた研究課題の状況を概観する。

8-11. フィールドワーク [演習]

意図的観察、インタビュー、発達の査定・理解を通して、ケースの分析

12-13. フィールドワークにおける現象の分析

[プレゼンテーション・ディスカッション]

14-15. 研究課題の明確化と研究計画書の作成 [ディスカッション]

それまでのレビュー、フィールドワークを通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。

(フィードバック方法) 課題・プレゼンに対するフィードバックは講義内に行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習すること。

【評価方法】

プレゼンテーション・口頭試問(50%)、レポート(50%)

【備考】

【科目名】精神看護学A

【授業コード】22N30071 22N30072

【代表教員】浅沼 奈美

【授業概要】

統合失調症とうつ病について、臨床症状を生物学的な面から見る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

《一般目標 (GIO)》

①統合失調症について臨床症状を生物学的な面から理解する。

②うつ病について臨床症状を生物学的な面から理解する。

【授業計画】

1. 脳内における5HT、カテコラミンなどの作用 [講義・質疑・プレゼンテーション]

脳および神経の仕組みについて詳しく知識を身につける。

2. 神経伝達物質とは [講義・質疑・プレゼンテーション]

脳および神経の仕組みについて詳しく知識を身につける。

3. クレブリン、プロイアー、シュナイダーの考え方 [講義・質疑・プレゼンテーション]

精神医学理論および精神科診断についての知識を身につける。

4. 精神分析とDSM [講義・質疑・プレゼンテーション]

精神医学理論および精神科診断についての知識を身につける。

5. 行動と脳の関係 [講義・質疑・プレゼンテーション]

人間の行動と脳について理解を深める。

6. 認知と脳の関係 [講義・質疑・プレゼンテーション]

人間の認知と脳について理解を深める。

7. 統合失調症とうつ病の前駆症状 [講義・質疑・プレゼンテーション]

統合失調症とうつ病についての症状について理解を深める。

8. 統合失調症の急性期症状 [講義・質疑・プレゼンテーション]

統合失調症の症状について理解を深める。

9. 統合失調症の慢性期症状 [講義・質疑・プレゼンテーション]

統合失調症の症状について理解を深める。

10. うつ病の臨床経過 [講義・質疑・プレゼンテーション]

うつ病の経過について理解を深める。

11. 統合失調症の急性期症状と向精神薬 [講義・質疑・プレゼンテーション]

統合失調症の治療について理解を深める。

12. 統合失調症の慢性期症状と向精神薬 [講義・質疑・プレゼンテーション]

統合失調症の治療について理解を深める。

13. うつ病の臨床経過と向精神薬 [講義・質疑・プレゼンテーション]

うつ病の治療について理解を深める。

14. 統合失調症と認知機能障害 [講義・質疑・プレゼンテーション]

統合失調症の認知機能について理解を深める。

15. うつ病と認知機能障害 [講義・質疑・プレゼンテーション]

うつ病の認知機能について理解を深める。

(各2回づつ合計30回実施)

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(30%)、口頭試問(70%)

【備考】

【科目名】精神看護学B

【授業コード】22N30081

【代表教員】浅沼 奈美

【授業概要】

神経症と心因反応について、臨床症状を生物学的な面から見る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

《一般目標 (GIO)》

①神経症について、臨床症状を生物学的な面から理解する。

②心因反応について、臨床症状を生物学的な面から理解する。

【授業計画】

1. 脳の構造について [講義・質疑・プレゼンテーション]

脳の構造と機能についての理解を深める。

2. 脳の機能について [講義・質疑・プレゼンテーション]

脳の構造と機能についての理解を深める。

3. 脳と心について [講義・質疑・プレゼンテーション]

脳と心についての理解を深める。

4. 脳の機能と行動について [講義・質疑・プレゼンテーション]

脳の機能と行動についての理解を深める。

5. 精神分析と脳について [講義・質疑・プレゼンテーション]

精神分析と脳について理解を深める。

6. 意識と無意識について [講義・質疑・プレゼンテーション]

意識と無意識についての理解を深める。

7. 神経症とは [講義・質疑・プレゼンテーション]

神経症についての理解を深める。

8. 心因反応とは [講義・質疑・プレゼンテーション]

心因反応についての理解を深める。

9. うつ病と抑うつについて [講義・質疑・プレゼンテーション]

うつ病と抑うつについての理解を深める。

10. 精神科領域における正常と異常について [講義・質疑・プレゼンテーション]

精神科における正常以上の考え方を理解する。

11. 臨床症状と向精神薬について (1) [講義・質疑・プレゼンテーション]

症状と向精神薬について理解を深める。

12. 臨床症状と向精神薬について (2) [講義・質疑・プレゼンテーション]

症状と向精神薬について理解を深める。

13. 臨床症状と向精神薬について (3) [講義・質疑・プレゼンテーション]

症状と向精神薬について理解を深める。

14. 臨床症状と向精神薬について (4) [講義・質疑・プレゼンテーション]

症状と向精神薬について理解を深める。

15. 臨床症状と向精神薬について (5) [講義・質疑・プレゼンテーション]

症状と向精神薬について理解を深める。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(30%)、口頭試問(70%)

【備考】

【科目名】ウィメンズヘルス看護学A

【授業コード】22N30091 22N30092

【代表教員】松岡 恵

【授業概要】

母性看護学、助産学領域における健康課題について医学・生理学的な特徴、対象者とその家族の体験を明らかにする。また、現状の施策、制度の歴史的／文化的な背景と課題、新たな制度および専門的ケア開発に関する国内外の動向を実践例、研究例から理解する。さらに母性看護学、助産学領域における看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究するための基礎的能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

《一般目標 (GIO)》

①母性看護学、助産学領域における健康課題について医学生理学的な特徴、対象者とその家族の問題状況の特性、専門的ケア提供を行うための組織、制度の背景と課題を理解する。

②関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題と制度／看護支援方法の開発方法を明らかにする。

③国内外の学会および学術誌に発表し、研究者としての資質を養う。

【授業計画】

1-10. 女性の性と生殖に関連する健康課題、胎児・新生児の健康課題に関する研究の国際的動向および日本の課題 [演習]

11-15. 受講者の関心領域におけるケア対象者看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 [演習]

16-20. 11-15回の検討結果を踏まえた研究課題の明確化 [演習]

21-25. 研究課題を明らかにするための研究方法とその研究例研究技法の修得 [演習]

26-30. 国内外の学会発表、および学術誌への論文投稿への準備 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、その回の発表者は授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布し、参加者は配付資料および文献を熟読する。

(復習)

1-30. 授業でのコメントをもとに、発表者は不足している点について補足し、参加者に追加資料を配付する。参加者は授業内容をまとめ、理解が不足している点について補足学習を行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】ウィメンズヘルス看護学B

【授業コード】22N30101

【代表教員】松岡 恵

【授業概要】

理論構築に必要な概念分析の手法を学び、母性看護学、助産学領域における主要な概念を分析する。さらに受講者の関心領域における対象の理解、看護支援方法開発にむけた主要な概念を分析し、理論的な枠組みを構築する過程を学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

《一般目標 (GIO)》

理論構築に向けた概念分析の必要性と方法を学び、母性看護学、助産学領域の主要概念の分析を通して、受講者の関心領域における対象の理解、看護支援開発に向けたケアの開発にむけた理論的な枠組みの構築を行う。

《個別目標 (SBOs)》

①理論構築のための概念分析の必要性を理解し、その方法を学ぶ。

②母性看護学、助産学領域の主要概念について、テキストを用いて概念分析の過程を学ぶ。

③受講者の関心領域の対象の理解または看護支援方法の開発にむけた主要な概念について概念分析の過程を学ぶ。

④概念分析を基に、博士論文の研究の理論的な枠組みを構築する過程を学ぶ。

【授業計画】

1-5. 概念分析の意義と方法 [演習]

看護分野における複数の概念分析の手法と概念分析を用いた研究を参考に概念分析の手法を学ぶ。

6-10. 母性看護学・助産学の主要概念の概念分析 [演習]

1-5回の学習を基に、母性看護学、助産学領域の主要概念の概念分析に関する研究例を精査する。

11-15. 受講者の研究課題の主要概念の概念分析 [演習]

1-10回の学習を基に、受講者の研究課題に関連する複数の概念について概念分析を行い研究の概念枠組みを作成する。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、概念分析に関する参考文献の毎回のテーマに該当する章を熟読し、受講者自身の研究課題の主要概念に関する概念分析をすすめる。

(復習)

1-15. 授業内容をまとめ、学習が不足している点について補足学習を行う。演習で指摘された点をふまえて発表内容を整理し研究の概念枠組みを構築する。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(75%)、プレゼンテーション(25%)

【備考】

【科目名】地域看護学A

【授業コード】22N30111 22N30112

【代表教員】大木 幸子

【授業概要】

受講生が各自のフィールドにおいて地域看護領域に関するテーマを設定し、個人、家族、集団、地域への看護の特質とその支援技術について討議し、考察を深めるとともに、それらの研究課題を設定し、研究を遂行する能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

優れたマネジメント能力

・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

《一般目標 (GIO)》

①個人・家族、集団、地域の健康課題に関連する要因の複雑性について、理論を活用しながら考察する。

②個人・家族、集団、地域への地域看護実践とその現象から研究的課題を考察する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①地域で生活する人々の健康課題を多面的に検討し、その関連要因を探索する。
- ②個人・家族、集団、地域の健康課題の解決のための支援及びその評価を遂行する能力を修得する。
- ③地域看護実践に寄与しうる研究を行うために必要な能力を修得する。

【授業計画】

- 1-4. 地域看護実践の基盤となる概念・理論 (エンパワメント、パートナーシップ、アドボカシー) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 5-8. 公共論からみた地域看護実践 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 9-10. 地域における健康課題の多角的分析 (健康の規定要因に関する諸理論) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 11-12. 地域における健康課題の多角的分析 (ソーシャルキャピタルの概念および健康へ与える要因) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 13-14. 社会的包摂に関する概念と地域看護実践 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 15. 中間まとめ [プレゼンテーション]
 - 16-17. 地域看護実践における個人・家族への支援に関する理論・概念、モデル (ストレンクスモデル、オープンダイアログ) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 18-19. 個人・家族への支援のリフレクションに関する理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 20-21. 地域看護実践における集団・組織への支援に関する理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 22-23. 地域看護実践における地域診断に関する理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 24-25. 地域看護実践における対話と合意形成の理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 26-27. 地域の健康課題への研究的接近方法 [プレゼンテーション]
 - 28-29. 地域看護実践への研究的接近方法 [プレゼンテーション]
 - 30. まとめ [プレゼンテーション・まとめ]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回のテーマに関連した文献を読んでおくこと。発表者は、事前学習についてレポートにまとめておくこと。
- (復習)
- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション (30%)、レポート (40%)、口頭試問 (30%)

【備考】

【科目名】 地域看護学B

【授業コード】 22N30121

【代表教員】 大木 幸子

【授業概要】

健康と生活、地域のつながりを理解し、個人及び家族、集団、地域への支援方法の体系を学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門領域における最新知識

・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

《一般目標 (GIO) 》

個人・家族、集団、地域の健康課題に関連する要因の輻輳性について、理論を活用しながら考察する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①地域で生活する人々の健康課題を多面的に検討し、その関連要因を探索する。
- ②個人・家族、集団、地域の健康課題の解決のための支援及びその評価を遂行する能力を修得する。

【授業計画】

- 1-4. 地域看護実践の基盤となる概念・理論 (エンパワメント、パートナーシップ、アドボカシー) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 5-8. 公共論からみた地域看護実践 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 9-10. 地域における健康課題の多角的分析 (健康の規定要因に関する諸理論) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 11-12. 地域における健康課題の多角的分析 (ソーシャルキャピタルの概念および健康へ与える要因) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 13-14. 社会的包摂に関する概念と地域看護実践 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
 - 15. まとめ [プレゼンテーション]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回のテーマに関連した文献を読んでおくこと。発表者は、事前学習についてレポートにまとめておくこと。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (30%)、レポート (40%)

看護学専攻 博士後期課程

ジャーナルクラブ

特別研究

看護学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【ジャーナルクラブ・特別研究】

◆看護学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専門領域における最新知識
 - ・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
- (2) 優れたマネジメント能力
 - ・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。
- (3) 高い倫理観と研究遂行能力
 - ・高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	ページ	
				春	秋	夜間	土曜					
ジャーナルクラブ	ジャーナルクラブⅠ	大木 幸子	2		○	○	×			★	315	
	ジャーナルクラブⅠ	中島 恵美子	2		○	○	○			★	315	
	ジャーナルクラブⅠ	加賀谷 聡子	2		○	○	○			★	315	
	ジャーナルクラブⅠ	松岡 恵	2		○	○	×			★	315	
	ジャーナルクラブⅠ	浅沼 奈美	2	○		○	×			★	315	
	ジャーナルクラブⅡ	大木 幸子	2		○	○	×			★	315	
	ジャーナルクラブⅡ	中島 恵美子	2	○		○	○			★	316	
	ジャーナルクラブⅡ	加賀谷 聡子	2	○		○	○			★	316	
	ジャーナルクラブⅡ	松岡 恵	2		○	○	×			★	316	
	ジャーナルクラブⅡ	浅沼 奈美	2	○		○	×			★	316	
特別研究	基礎看護科学	特別研究Ⅰ	荒添 美紀	4	○	○	—	—			★	317
		特別研究Ⅰ	金子 多喜子	4	○	○	—	—			★	317
		特別研究Ⅱ	荒添 美紀	4	○	○	—	—			★	317
		特別研究Ⅱ	金子 多喜子	4	○	○	—	—			★	317
		特別研究Ⅲ	荒添 美紀	4	○	○	—	—			★	317
		特別研究Ⅲ	金子 多喜子	4	○	○	—	—			★	318
	実践看護学	特別研究Ⅰ	大木 幸子	4	○	○	—	—			★	318
		特別研究Ⅰ	中島 恵美子	4	○	○	—	—			★	318
		特別研究Ⅰ	加賀谷 聡子	4	○	○	—	—			★	318
		特別研究Ⅰ	浅沼 奈美	4	○	○	—	—			★	318
		特別研究Ⅰ	坂井 志麻	4	○	○	—	—			★	319
		特別研究Ⅰ	佐々木 裕子	4	○	○	—	—			★	319
		特別研究Ⅰ	柴崎 美紀	4	○	○	—	—			★	319
		特別研究Ⅰ	田原 美香	4	○	○	—	—			★	319
		特別研究Ⅰ	藤田 千春	4	○	○	—	—			★	319
		特別研究Ⅱ	大木 幸子	2	○	○	—	—			★	320
		特別研究Ⅱ	中島 恵美子	2	○	○	—	—			★	320
		特別研究Ⅱ	加賀谷 聡子	2	○	○	—	—			★	320
		特別研究Ⅱ	浅沼 奈美	2	○	○	—	—			★	320
		特別研究Ⅱ	坂井 志麻	2	○	○	—	—			★	321
		特別研究Ⅱ	佐々木 裕子	2	○	○	—	—			★	321
		特別研究Ⅱ	柴崎 美紀	2	○	○	—	—			★	321
		特別研究Ⅱ	田原 美香	2	○	○	—	—			★	321
		特別研究Ⅱ	藤田 千春	2	○	○	—	—			★	321
		特別研究Ⅲ	大木 幸子	2	○	○	—	—			★	322
		特別研究Ⅲ	中島 恵美子	2	○	○	—	—			★	322
		特別研究Ⅲ	加賀谷 聡子	2	○	○	—	—			★	322

看護学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【ジャーナルクラブ・特別研究】

◆看護学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専門領域における最新知識
・看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。
- (2) 優れたマネジメント能力
・社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。
- (3) 高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	ページ	
				春	秋	夜間	土曜					
特 別 研 究	実 践 看 護 科 学	特別研究Ⅲ	浅沼 奈美	2	○	○	—	—			★	322
		特別研究Ⅲ	坂井 志麻	2	○	○	—	—			★	323
		特別研究Ⅲ	佐々木 裕子	2	○	○	—	—			★	323
		特別研究Ⅲ	柴崎 美紀	2	○	○	—	—			★	323
		特別研究Ⅲ	田原 美香	2	○	○	—	—			★	323
		特別研究Ⅲ	藤田 千春	2	○	○	—	—			★	323

【科目名】 ジャーナルクラブ I

【授業コード】 22N3J1A2

【代表教員】 大木 幸子

【授業概要】

地域看護領域における課題に関する国内外の文献の抄読を通して、地域看護領域の専門性への考察を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

地域看護に関連する国内外の論文を読み、地域看護を発展させるために必要な知見を理解する。

＜個別目標 (SBOs) ＞

地域看護に関連する重要な知見を説明できる。

【授業計画】

1-6. 公衆衛生領域に関する論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]

7-12. 地域看護に関する論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]

13-15. 地域看護学領域の研究動向についてプレゼンテーションおよび討議

[プレゼンテーション・討議]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習、復習とも60分以上必要である。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ I

【授業コード】 22N3J1B2

【代表教員】 中島 恵美子

【授業概要】

成人看護学領域に関する海外文献を講読し、その課題を明確にし、研究への示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

成人看護学領域に関する海外文献を精読し国内外の動向および現状が理解できる。

【授業計画】

1-12. 成人看護学領域(慢性期)に関する海外文献講読 [演習]

13-15. 成人看護学領域の研究動向についてプレゼンテーション、討議 [演習・討議]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。

また、授業後は次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。

(復習)

1-15. 他に学習が不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ I

【授業コード】 22N3J1C2

【代表教員】 加賀谷 聡子

【授業概要】

成人看護学領域に関する海外文献を講読し、その課題を明確にし、研究への示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

成人看護学領域に関する海外文献を精読し国内外の動向および現状が理解できる。

【授業計画】

1-12. 成人看護学領域(急性期)に関する海外文献講読 [演習]

各自の関心に基づき海外文献を講読する。

13-15. 成人看護学領域の研究動向についてプレゼンテーション、討議 [演習、討議]

研究動向についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションで内容を深める。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分、必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ I

【授業コード】 22N3J1D2

【代表教員】 松岡 恵

【授業概要】

母性看護学領域に関する海外文献を講読し、母性看護学領域での研究課題と動向、最新の研究方法についての理解を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

母性看護学領域に関する海外文献を講読し、国内外の動向と現状が理解できる。

【授業計画】

1-8. 母性看護学領域に関する海外文献の講読 [演習]

9-10. 母性看護学領域の研究動向についてプレゼンテーションと討議 [演習]

11-15. 母性看護学領域で用いられる研究手法、測定用具 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともゼミ前日までにレジメと文献のコピーを指導教員およびゼミ出席者に提出する。

(復習)

1-15. 授業でのコメントを元に、学習の不足している点について補足学習を行い、追加の資料を作成する。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ I

【授業コード】 22N3J1E1

【代表教員】 浅沼 奈美

【授業概要】

精神看護学領域に関する海外の文献を講読し、研究への示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

精神看護学領域に関する海外の文献を講読し、諸外国における精神看護の動向を理解できる。

【授業計画】

1-5. 諸外国の精神看護学に関する文献講読(5回) [演習]

6-10. 文献に関するプレゼンテーション・討議(5回) [演習・プレゼンテーション]

11-15. 諸外国の精神看護制度に関する文献講読(5回) [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ II

【授業コード】 22N3J2A2

【代表教員】 大木 幸子

【授業概要】

各自の研究テーマにそった課題に関する国内外の文献の抄読を通して、自らの研究課題及びこれらの課題への接近方法についての示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

研究課題に応じた国内外の研究動向を理解する。

《個別目標 (SBOs)》

研究課題に応じた国内外の論文を読み、その課題の知見を理解し、研究的課題について考察する。

【授業計画】

- 1-7. 自らの研究テーマに応じた文献の講読 (7回) [プレゼンテーション・討議]
 - 8-14. 講読文献に関するプレゼンテーションと討議 (7回) [プレゼンテーション・討議]
 - 15. まとめ (1回) [プレゼンテーション・討議]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。(復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習、復習とも60分以上必要である。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ II

【授業コード】 22N3J2B1

【代表教員】 中島 恵美子

【授業概要】

研究課題に関する海外文献を講読し、自己の研究課題に対する示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO)》

研究課題に応じた海外文献を精読し、研究背景や研究方法が理解できる。

【授業計画】

- 1-7. 自己の研究課題に応じた文献講読 [演習]
 - 8-14. 講読文献についてプレゼンテーション・討議 [演習]
 - 15. まとめ [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。また、次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。(復習)

1-15. 他に学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ II

【授業コード】 22N3J2C1

【代表教員】 加賀谷 聡子

【授業概要】

研究課題に関する海外文献を講読し、自己の研究課題に対する示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO)》

研究課題に応じた海外文献を精読し、研究背景や研究方法が理解できる。

【授業計画】

- 1-7. 自己の研究課題に応じた文献講読 [演習]
 - 各自の研究課題に関連した海外文献を講読する。
 - 8-14. 講読文献についてプレゼンテーション・討議 [演習]
 - 講読した文献のプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して内容を深める。
 - 15. まとめ [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。また、次回テーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。(復習)

1-15. 学習の不足している点については、資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ II

【授業コード】 22N3J2D2

【代表教員】 松岡 恵

【授業概要】

自らの研究課題に関連する海外文献を講読し、着手する研究への示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO)》

研究課題に応じた海外文献を講読しその内容を理解しプレゼンテーションできる。

【授業計画】

- 1-7. 自らの研究課題に応じた文献講読 [演習]
 - 8-14. 講読した文献についてプレゼンテーション、討議 [演習]
 - 15. まとめ [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回ともゼミ前日までにレジメと文献のコピーを指導教員およびゼミ出席者に提出すること。(復習)
- 1-15. 授業でのコメントをもとに、学習が不足している点について、補足学習を行い、追加資料を作成すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 ジャーナルクラブ II

【授業コード】 22N3J2E1

【代表教員】 浅沼 奈美

【授業概要】

研究課題に関する海外の文献を講読し、自己の研究への示唆を得る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO)》

研究課題に関する海外の文献を講読し、研究の概要、方法論を理解できる。

【授業計画】

- 1-7. 研究課題に関する文献講読 (7回) [演習]
 - 8-14. 文献に関するプレゼンテーション・討議 (7回) [演習]
 - 15. まとめ (1回) [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 I
【授業コード】 22N2T1A1 22N2T1A2
【代表教員】 荒添 美紀
【授業概要】
 学位論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。
【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標 (GIO) >
 研究課題および研究方法を明確にする。
 <個別目標 (SBOs) >
 ① 自己の研究課題を明確にする。(知識)
 ② 倫理的に適切な研究方法を選択できる。(技能)
 ③ 研究計画書が作成できる。(技能)
【授業計画】
 1-8. 研究課題の追求 [演習]
 9-14. 研究課題に従った先行研究の分析 [演習]
 15-20. 研究計画に関する論理的問題の検討 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
【準備学習】
 (予習)
 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 また次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間 (予習復習など) は、120 時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
【評価方法】
 口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)
【備考】

【科目名】 特別研究 I
【授業コード】 22N2T1B1 22N2T1B2
【代表教員】 金子 多喜子
【授業概要】
 学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。
【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標 (GIO) >
 研究課題および方法を明確にする。
【授業計画】
 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 9-16. 先行研究の検討 [演習]
 17-20. 研究方法論の作成 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
【準備学習】
 (予習)
 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間 (予習復習など) は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
【評価方法】
 口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)
【備考】

【科目名】 特別研究 II
【授業コード】 22N2T2A1 22N2T2A2
【代表教員】 荒添 美紀
【授業概要】
 特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関する最新文献をチェックしていく。
【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標 (GIO) >
 特別研究 II と同様、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
 <個別目標 (SBOs) >
 ① 指導を受け、論文を作成できる。(技能)
 ② 研究課題に対して、積極的に研究を進めることができる。(技能)
 ③ 研究報告会で捗状況を発表できる。(技能・態度)
【授業計画】
 1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習]
 3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
 6-10. 論文構成、内容整理 [演習]

<個別目標 (SBOs) >
 ① 研究計画書を完成させ、倫理審査を受けることができる。(技能)
 ② 研究課題に対して、積極的に研究を進めることができる。(技能)
 ③ 研究報告会で捗状況を発表できる。(技能・態度)
【授業計画】
 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
 3-5. 研究方法の検討 [演習]
 6-10. 文献検索 [演習]
 11-13. フィールドワーク [演習]
 14-15. プレゼンテーション [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間 (予習復習など) は、60 時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
【評価方法】
 口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)
【備考】

【科目名】 特別研究 II
【授業コード】 22N2T2B1 22N2T2B2
【代表教員】 金子 多喜子
【授業概要】
 特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関する最新文献をチェックしていく。
【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標 (GIO) >
 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
【授業計画】
 1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習]
 4-6. 研究方法の検討 [演習]
 7-9. 文献検索 [演習]
 10-12. フィールドワーク [演習]
 13-15. プレゼンテーション [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
【評価方法】
 口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)
【備考】

【科目名】 特別研究 III
【授業コード】 22N2T3A1 22N2T3A2
【代表教員】 荒添 美紀
【授業概要】
 特別研究 III では、特別研究 II の指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。
【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標 (GIO) >
 特別研究 II と同様、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
 <個別目標 (SBOs) >
 ① 指導を受け、論文を作成できる。(技能)
 ② 研究課題に対して、積極的に研究を進めることができる。(技能)
 ③ 研究報告会で捗状況を発表できる。(技能・態度)
【授業計画】
 1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習]
 3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
 6-10. 論文構成、内容整理 [演習]

11-13. 論文作成、討論 [演習]
14-15. プレゼンテーション [演習]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は、60時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N2T3B1 22N2T3B2
【代表教員】 金子 多喜子
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
〈一般目標(GIO)〉

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
10-12. 論文作成、討論 [演習]
13-15. プレゼンテーション [演習]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅰ
【授業コード】 22N3T1A1 22N3T1A2
【代表教員】 大木 幸子
【授業概要】

博士論文作成にむけ、研究課題の明確化や研究課題に応じた研究手法など、自立した研究活動のための研究方法論を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
〈一般目標(GIO)〉

研究テーマに接近するために、的確かつ独創的な研究計画の立案に過程と方法を修得する。
〈個別目標(SBOs)〉

①研究テーマに基づいて、研究背景、目的、方法などを含めた研究計画を適切に立案できる。
②研究目的を達成するための研究方法について、これまでの知見を踏まえ、より独創的に検討することができる。

【授業計画】

1-8. 研究課題の探求 [演習]
9-16. 研究課題に関する先行文献の検討 [演習]
17-20. 研究計画に関する倫理的問題の検討 [演習]
21-30. 研究計画書の作成 [プレゼンテーション・討議]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-30. 年間の研究スケジュールにそって、関連した先行研究のレビュー、研究計画の作成、研究課題への取り組み過程のプレゼン資料をまとめておくこと。

(復習)
1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅰ
【授業コード】 22N3T1B1 22N3T1B2
【代表教員】 中島 恵美子
【授業概要】

研究課題を明確にし研究計画書を作成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
〈一般目標(GIO)〉

論文作成に関する研究課題の明確化と研究手法を学び、研究活動ができるようにする。

【授業計画】

1-8. 研究課題の追求 [演習]
9-14. 研究課題に従った先行研究の分析 [演習]
15-20. 研究計画に関する倫理的問題の検討 [演習]
21-30. 研究計画書の作成 [演習]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。
また、次回テーマに関してのデータ整理、検討を済ませておく。

(復習)

1-30. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅰ
【授業コード】 22N3T1C1 22N3T1C2
【代表教員】 加賀谷 聡子
【授業概要】

学位論文作成に向けて、研究課題および研究手法を明確にし、自立した研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
〈一般目標(GIO)〉

研究課題および方法を明確にする。

【授業計画】

1-8. 研究課題の探究 [演習]
関心のある領域の文献を検討し、研究課題を明確にしていく。
9-16. 研究課題に関する先行文献の検討 [演習]
各自の研究課題に関する先行研究を分析する。
17-20. 研究計画における倫理的問題の検討 [演習]
研究課題に関連する倫理的問題を検討する。

21-30. 研究計画書の作成 [演習]
研究計画書の作成を行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-30. 年間の研究スケジュールをまとめておく。各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。また、次回テーマに関してデータの整理、検討を行い、資料を作成すること。

(復習)

1-30. 学習の不足している点については、資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅰ
【授業コード】 22N3T1D1 22N3T1D2
【代表教員】 浅沼 奈美
【授業概要】

学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
〈一般目標(GIO)〉

研究課題および方法を明確にする。

【授業計画】

- 1-12. 先行研究の検討 (12回) [演習・プレゼンテーション]
 13-20. フィールドの選定 (8回) [演習・プレゼンテーション]
 21-30. 研究計画書の作成 (10回) [演習・プレゼンテーション]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】**【科目名】** 特別研究 I

【授業コード】 22N3T1E1 22N3T1E2

【代表教員】 坂井 志麻

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

- 《学位授与方針との関連》
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 《一般目標 (GIO)》
 学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。
 《個別目標 (SBOs)》
 ①国内外の研究の動向を探索するとともに、独創的な視点から研究課題を設定できる。
 ②研究課題について、適切な研究方法を選定し、研究計画書を立案できる。

【授業計画】

- 1-8. 研究課題の探究 [演習]
 9-16. 研究課題に関する先行文献の検討 [演習]
 17-20. 研究計画における倫理的問題の検討 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [プレゼンテーション、討議]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 ・年間の研究スケジュールをまとめておく。
 ・関連した先行研究を読みレビューし、研究動向をまとめておく。
 ・研究課題を絞り、研究計画を作成する。
 ・研究課題への取り組み過程をプレゼン資料としてまとめておく。
 (復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】**【科目名】** 特別研究 I

【授業コード】 22N3T1G1 22N3T1G2

【代表教員】 佐々木 裕子

【授業概要】

専門領域における自己の研究課題を明確にし、その課題を追求する方法を探索し、博士研究の基盤を作る。また、研究課題を実証的に探求できる研究計画書を作成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

- 《学位授与方針との関連》
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 《一般目標 (GIO)》
 自己の研究課題および方法を明確にする。

【授業計画】

- 1-10. 課題解決を必要とする研究論文のレビューと研究課題の明確化 [演習]
 11-20. 研究テーマの選定とテーマに対応した研究デザインの検討 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [演習・プレゼンテーション]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】**【科目名】** 特別研究 I

【授業コード】 22N3T1H1 22N3T1H2

【代表教員】 柴崎 美紀

【授業概要】

博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

- 《学位授与方針との関連》
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 《一般目標 (GIO)》
 自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 9-16. 関連文献の検討 [演習]
 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 1-30. 博士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジュメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】**【科目名】** 特別研究 I

【授業コード】 22N3T1I1 22N3T1I2

【代表教員】 田原 美香

【授業概要】

博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

- 《学位授与方針との関連》
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 《一般目標 (GIO)》
 自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 9-16. 関連文献の検討 [演習]
 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 1-30. 博士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジュメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】**【科目名】** 特別研究 I

【授業コード】 22N3T1J1 22N3T1J2

【代表教員】 藤田 千春

【授業概要】

博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

- 《学位授与方針との関連》
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 《一般目標 (GIO)》
 自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 9-16. 関連文献の検討 [演習]
 17-20. 研究方法、研究フィールドの検討 [演習]

21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)

1-30. 博士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジュメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

(復習)

1-30. 授業でのコメントをもとに、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅱ
【授業コード】 22N3T2A1 22N3T2A2
【代表教員】 大木 幸子
【授業概要】
 特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後は、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるようデータ収集及び分析に関する議論を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献を読み、討議する。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標(GIO)>
 研究倫理のもと研究テーマの探求のため、適切に研究を遂行する。
 <個別目標(SBOs)>
 ①研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において、わかりやすく発表できる。
 ②倫理的判断を適切に行い、研究を遂行する。

【授業計画】
 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
 3-4. 研究方法の検討 [演習]
 5-7. 研究課題に関する先行文献に関する討議 [演習]
 8-11. フィールド・ワーク [演習]
 12-15. 調査データの収集方法・分析方法に関する討議 [プレゼンテーション・討議]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)

1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。
 (復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅱ
【授業コード】 22N3T2B1 22N3T2B2
【代表教員】 中島 恵美子
【授業概要】
 特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後は、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標(GIO)>
 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
 3-5. 研究方法の検討 [演習]
 6-10. 文献検索 [演習]
 11-13. フィールドワーク [演習]
 14-15. プレゼンテーション [演習]
 以上を15回で実施する。
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。
 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅱ
【授業コード】 22N3T2C1 22N3T2C2
【代表教員】 加賀谷 聡子
【授業概要】
 特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標(GIO)>
 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
 特別研究Ⅰで検討した研究計画について、内容の確認と再検討を行う。
 3-5. 研究方法の検討 [演習]
 研究方法の詳細な検討を行う。
 6-10. 文献検索 [演習]
 各自のテーマに沿って必要な文献検討を適宜追加で実施する。
 11-13. フィールドワーク [演習]
 データ収集に向けて準備を進め、倫理審査承認後データ収集を進めていく。
 14-15. プレゼンテーション [演習]
 研究の進行状況についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションで内容を深める。
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。
 また、次回のテーマに関してデータ整理、検討を行い、資料を作成すること。
 (復習)

1-15. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅱ
【授業コード】 22N3T2D1 22N3T2D2
【代表教員】 浅沼 奈美
【授業概要】
 特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 <学位授与方針との関連>
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
 <一般目標(GIO)>
 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-3. 研究計画の確認、再検討 (3回) [演習・プレゼンテーション]
 4-6. 研究方法の検討 (3回) [演習・プレゼンテーション]
 7-9. 文献検索 (3回) [演習・プレゼンテーション]
 10-12. フィールドワーク (3回) [演習・プレゼンテーション]
 13-15. プレゼンテーション (3回) [演習・プレゼンテーション]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22N3T2E122N3T2E2
【代表教員】坂井 志麻
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究課題に沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるよう指導する。倫理審査承認後は、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるようデータ収集及び分析に関する議論を行う。また、継続的に研究課題に関連する最新文献を読み、討議する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①倫理委員会提出用の書類が作成できる。
- ②データの収集ができる。
- ③データの分析ができる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション、討議]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22N3T2G122N3T2G2
【代表教員】佐々木 裕子
【授業概要】

特別研究Ⅰで選定した研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるよう指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献を読み、討議する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習・プレゼンテーション]

4-6. 研究方法の検討 [演習・プレゼンテーション]

7-9. 文献検索 [演習・プレゼンテーション]

10-12. フィールドワーク [演習・プレゼンテーション]

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22N3T2H122N3T2H2
【代表教員】柴崎 美紀
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるよう指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し

し研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習]

4-6. 研究方法の検討 [演習]

7-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。(復習)

- 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22N3T2I122N3T2I2
【代表教員】田原 美香
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるよう指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習]

4-6. 研究方法の検討 [演習]

7-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。(復習)

- 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22N3T2J122N3T2J2
【代表教員】藤田 千春
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるよう指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習、プレゼンテーション]

4-6. 研究方法の検討 [演習、プレゼンテーション]

7-10. 文献検索 [演習、プレゼンテーション]

11-13. フィールドワーク [演習、プレゼンテーション]

14-15. プレゼンテーション [演習、プレゼンテーション]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。
(復習)
1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3A122N3T3A2
【代表教員】 大木 幸子
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
≪一般目標 (GIO) ≫
研究結果をまとめ論文を作成する。
≪個別目標 (SBOs) ≫
①研究を順調に遂行する。
②研究結果から科学的根拠に基づいて考察をする。
③研究内容を論文としてまとめる。

【授業計画】
1-6. 調査結果の分析と考察に関する討論 [演習]
7-11. 論文構成、テーマの焦点化に関する討議 [演習]
12-14. 論文作成に関する討議 [演習]
15. プレゼンテーション及び質疑 [プレゼンテーション・討議]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3B122N3T3B2
【代表教員】 中島 恵美子
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
≪一般目標 (GIO) ≫
特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習]
3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
6-10. 論文構成、内容整理 [演習]
11-13. 論文作成、討論 [演習]
14-15. プレゼンテーション [演習]
以上を 15 回で実施する。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。
また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3C122N3T3C2
【代表教員】 加賀谷 聡子
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
≪一般目標 (GIO) ≫
特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習]
特別研究Ⅱや研究報告会での指摘を参考に、研究内容の再検討を行う。
3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
得られたデータを分析し、ディスカッションを行い内容を深めていく。
6-10. 論文構成、内容整理 [演習]
論文構成について学び、各自の論文の構成や内容を整理する。
11-13. 論文作成、討論 [演習]
論文を作成し、その内容についてディスカッションを行い内容を深める。
14-15. プレゼンテーション [演習]
研究結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
また次回のテーマに関してデータ整理、検討を行い、資料を作成すること。
(復習)
1-15. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は 60 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3D122N3T3D2
【代表教員】 浅沼 奈美
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫
高い倫理観と研究遂行能力
・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。
≪一般目標 (GIO) ≫
特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
1-3. 研究内容の再検討、整理 (3回) [演習・プレゼンテーション]
4-6. 研究結果の分析と考察、討論 (3回) [演習・プレゼンテーション]
7-9. 論文構成、内容整理 (3回) [演習・プレゼンテーション]
10-12. 論文作成、討論 (3回) [演習・プレゼンテーション]
13-15. プレゼンテーション (3回) [プレゼンテーション]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3E1 22N3T3E2
【代表教員】 坂井 志麻
【授業概要】
 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 ≪学位授与方針との関連≫
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

≪一般目標 (GIO) ≫
 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

≪個別目標 (SBOs) ≫
 ①研究論文を作成することができる。
 ②研究成果のプレゼンテーションができる。

【授業計画】
 1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習]
 3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
 6-10. 論文構成、内容整理 [演習]
 11-13. 論文作成、討論 [演習]
 14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション、討議]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3G1 22N3T3G2
【代表教員】 佐々木 裕子
【授業概要】
 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 ≪学位授与方針との関連≫
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

≪一般目標 (GIO) ≫
 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習・プレゼンテーション]
 4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習・プレゼンテーション]
 7-9. 論文構成、内容整理 [演習・プレゼンテーション]
 10-12. 論文作成、討論 [演習・プレゼンテーション]
 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3H1 22N3T3H2
【代表教員】 柴崎 美紀
【授業概要】
 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 ≪学位授与方針との関連≫
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

≪一般目標 (GIO) ≫
 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
 4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
 7-10. 論文構成、内容整理 [演習]
 11-13. 論文作成、討論 [演習]
 14-15. プレゼンテーション [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。
 (復習)
 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3I1 22N3T3I2
【代表教員】 田原 美香
【授業概要】
 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 ≪学位授与方針との関連≫
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

≪一般目標 (GIO) ≫
 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
 4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]
 7-10. 論文構成、内容整理 [演習]
 11-13. 論文作成、討論 [演習]
 14-15. プレゼンテーション [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)
 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。
 (復習)
 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
 口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ
【授業コード】 22N3T3J1 22N3T3J2
【代表教員】 藤田 千春
【授業概要】
 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
 ≪学位授与方針との関連≫
 高い倫理観と研究遂行能力
 ・高い倫理観と学際的・国際的な視野をもって、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

≪一般目標 (GIO) ≫
 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習、プレゼンテーション]
 4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習、プレゼンテーション]
 7-10. 論文構成、内容整理 [演習、プレゼンテーション]
 11-13. 論文作成、討論 [演習、プレゼンテーション]
 14-15. プレゼンテーション [演習、プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。

(復習)

1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】
